

彙報

会長 窪 蘭 晴 夫

——常任委員会——

2017年度第2回常任委員会

日 時：2017年10月22日(日)11:00～17:00

場 所：東京大学本郷キャンパス 文学部3号館6階3604室

出席者：窪蘭晴夫(会長), 井上 優, 上山あゆみ, 加藤重広, 小林正人, 斎藤 衛, 吉田和彦(以上, 常任委員), 野田尚史(事務局長)

オブザーバー：内海敦子(大会運営委員長), 中谷健太郎(広報委員長), 宮本陽一(夏期講座委員長), 金城由美子, 内藤真帆(事務局委員)

(欠席：有田節子, 小泉政利, 玉岡賀津雄
常任委員, 金水 敏 編集委員長)

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第155回大会(2017年秋季大会)：2017年11月25～26日(予定), 立命館大学衣笠キャンパス(大会実行委員長：有田節子氏)

第156回大会(2018年春季大会)：2018年6月23～24日(予定), 東京大学本郷キャンパス(大会実行委員長：西村義樹氏)

第157回大会(2018年秋季大会)：2018年11月17～18日(予定), 京都大学吉田キャンパス(大会実行委員長：吉田和彦氏)

(3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 言語系学会連合からの報告

・今年度は日本語学会の企画による公開シ

ンポジウム『ことばのプロフェッショナル』(2018年1月20日(土))を開催すること, 11月4日に加盟学会の意見交換会が行われる予定であることが報告された。

(5) 事務局からの報告

1. 会費の納入状況および滞納者への督促について

9月末時点で約80%の納入状況であることが報告された。昨年度と同様, 今年度もメールや常任委員による督促を実施する予定である。

2. オンライン選挙について

今年度オンライン選挙を導入するにあたり, 進捗状況と費用およびスケジュールが報告された。また開票後の措置に関する申合せの文言を確認した。

3. CIPL委員の選出について

2018年7月に現委員の田窪行則氏が退任, 新委員は次期会長が指名する。

4. Yuki Kuroda Student Fellowship Fundについて

現在の寄付額が報告され, 年末まで寄付を募ることを確認した。

(6) 聴覚障害を有する会員への支援について

・第155回大会で3名から手話通訳・ノートテイキングの申し込みがあったことが報告された。

[審議事項]

(1) 2018年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化, 研究成果公开发表)の応募について

・2018年度科学研究費補助金研究成果公開促進の国際情報発信強化, 研究成果公開(B)応募のため, それぞれの計画調書について検討を行い, 加筆・修正を行った。

(2) 80周年記念事業について

・言語学会50周年から80周年までの30年間の『日本言語学会80年の歩み』刊行に向けた執筆依頼計画について報告が行われた。また2018年度に実施される

春季・秋季大会にて記念シンポジウム、夏期講座にて特別講演を行うことを決定した。

- (3) 日本学術会議「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」への参加について
 - ・日本学術会議「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」へ参加することを決定した。日本言語学会からの代表者は今後検討する。
- (4) 平成 29 年九州北部豪雨の被災者に対する会費免除について
 - ・平成 29 年九州北部豪雨の被害地域に居住、勤務する会員はなく、会費免除は見送ることを決定した。
- (5) 役員定年制について
 - ・定年制導入の必要性について検討を行った結果、現在は役員の新旧交代がうまく進行していること、役員に選出されても辞退することができること、会員全員の生年確認が困難であることなどの理由から、現時点では提案を行わないことを決定した。

——評議員会——

2017 年度第 2 回評議員会

日 時：2017 年 11 月 25 日(土)10:00～12:30
 場 所：立命館大学 衣笠キャンパス 創思館
 カンファレンスホール (〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1)

出席者：窪蘭晴夫(会長)、加藤重広、佐々木冠、小野尚之、後藤 齊、井上 優、上野善道、風間伸次郎、河内一博、北原久嗣、木部暢子、野田高史、早津恵美子、福井直樹、松森晶子、三宅知宏、北野浩章、齋藤 衛、佐久間淳一、玉岡賀津雄、有田節子、梶 茂樹、金水 敏、定延利之、田窪行則、千田俊太郎、藤代 節、松本 曜、由本陽子、吉田和彦、吉田豊、米田信子、宮崎和人、青木博史、江口正、平子達也(以上、評議員 35 名)

委任状：33 名

オブザーバー：久保智之(会計監査委員)、

内海敦子(大会運営委員長)、中谷健太郎(広報委員長)、宮本陽一(夏期講座委員長)、金城由美子、内藤真帆(以上、事務局委員)

議事に先立ち、大会実行委員長の有田節子氏より挨拶がなされた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 156 回大会(2018 年春季大会)：2018 年 6 月 23～24 日(予定)、東京大学本郷キャンパス(大会実行委員長：西村義樹氏)
 - 第 157 回大会(2018 年秋季大会)：2018 年 11 月 17～18 日(予定)、京都大学吉田キャンパス(大会実行委員長：吉田和彦氏)
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合からの報告
 - ・今年度は日本語学会の企画による公開シンポジウム『ことばのプロフェッショナル』(2018 年 1 月 20 日(土))を開催すること、11 月 4 日に加盟学会の意見交換会が行われたことが報告された。
- (5) 事務局からの報告
 1. 会費の納入状況および滞納者への督促について

9 月末時点で約 80%の納入状況である。昨年度と同様、今年度も事務局および常任委員からの督促を実施する予定である。
 2. オンライン選挙について

今年度オンライン選挙を導入するにあたり、進捗状況、費用、今後のスケジュール、「開票後の措置に関する申合せ」が報告された。前回の評議員会で要望のあった、従来通り選挙人名簿を郵送して会員に事前確認を求めるという提案については、費用やオンライン選挙の正確さ

を勘案し、実施しないことにする。

3. CIPL 委員の選出について

2018年7月に現委員の田窪行則氏が退任するのに伴い、新委員は現会長と次期会長が協議の上、指名する。

4. Yuki Kuroda Student Fellowship Fund について

現在の寄付額が報告され、年末まで学会ホームページとメルマガで引き続き寄付を募る。

5. 平成29年九州北部豪雨の被災者に対する会費免除について

平成29年九州北部豪雨は政府の激甚災害に指定されたが、主な被害地域（福岡県朝倉市、大分県日田市）に居住または勤務する会員はいないため、会費免除は見送ることとする。

6. 日本学術会議「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」への参加について

日本学術会議から呼びかけのあった「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会」に日本語学会も参加する。

(6) 聴覚障害を有する会員への支援について

・第155回大会で手話通訳・ノートテイキングの申し込みが2件あったことが報告された。

(7) 2018年度科学研究費補助金研究成果公開促進費の応募について

・研究成果公開促進費(国際情報発信強化、研究成果公开发表)に応募すること、およびその内容が報告された。

(8) 80周年記念事業について

・言語学会50周年から80周年までの30年間の『日本言語学会80年の歩み』刊行に向けた執筆依頼計画と依頼状況について報告が行われた。また2018年度に実施される春季・秋季大会にて記念シンポジウム、夏期講座にて特別講演を行うことが報告された。過去に発行した『日本言語学会50周年の歩み』に関しても、PDF化し学会ホームページで公開の予定であることが報告された。

(9) 外部団体の活動への協力について

・国立民族学博物館が主催する『手話言語と音声言語に関する民博フェスタ2017』(2017年9月22日(金)～24日(日))の後援依頼があり、常任委員によるメール審議で承認されたことが報告された。

[審議事項]

(1) 『言語研究』投稿規程の改定について

・特集号の懲滯論文について非会員の投稿を認めるため、投稿規程の改定を行うことについて審議し、これを認めた。
 ・学会誌を受け取らず、その分の会費が割り引かれる「オンライン会員」を新たに設定してはどうかという提案が評議員からなされた。この提案を検討したが結論を得るに至らず、次期執行部に引き継ぐこととなった。

(2) 役員定年制について

・前回から継続審議となっていた役員定年制について審議した。現在は役員の新旧交代がうまく進行していること、役員に選出されても辞退することができること、会員全員の生年確認が困難であることなどの理由に、役員定年制の導入を見送ることが常任委員会案として提示され、審議の結果、これを承認した。ただこの件については、会長経験者は顧問として評議員会に出席し意見を述べることで済ませたいという意見が出され、この点については次期執行部で引き続き検討することになった。

(3) その他

・現執行部の任期中に新たに導入された制度や主な規程の改定、残された課題について会長から報告があった。

——編集委員会——

(1) 『言語研究』投稿規程の修正について

広く世界の優れた研究者の論文を『言語研究』に掲載するため、投稿規程第1項を次のように修正することについて

2017年11月25日の評議員会で提案、了承された(波線部が修正部分)。ただし、投稿者は会員に限定するという原則は保持し、非会員の執筆者には可能な限り入会の勧誘を従来通り行うこととした。

(投稿規程)

1. 投稿は会員に限る。ただし、共著の場合は筆頭著者が会員であればよい。特集号の従憑論文については会員以外の投稿も例外的に認める。

(2017年11月改定)

——大会運営委員会——

2017年度第2回大会運営委員会

日時：2017年9月11日(月)11:00～16:00

場所：立命館大学 衣笠キャンパス

出席者：内海敦子(大会運営委員長)、田村幸誠(副委員長)、山越康裕(副委員長)、越智正男、小野 創、金 善美、中村 渉、堀 博文、三宅知宏(大会運営委員)

[報告事項]

- (1) 第154回大会(首都大学東京)に関する財務状況を含む報告が大会運営委員長よりなされた。
- (2) 第155回大会(立命館大学)に関する準備状況が大会運営委員長より報告された。

[審議事項]

- (1) 第155回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表56件(応募90件、受理89件)、ポスター発表5件(応募9件)、ワークショップ2件(応募5件)を採択することとした。後に口頭発表1件、ポスター発表1件の発表辞退があった。ポスター発表の辞退はプログラム配布前であったため記載しなかったが、口頭発表の辞退は大会数日前であったため当日の掲示とアナウンスを行った。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は8会場7本(移動10分)とし、各発

表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。

- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行い、決定した。
- (4) 応募要旨作成要項について、参照文献のみを2ページ目に記載してよいという変更を行ってはじめての審査となったが、混乱はなかったため、今回の応募要旨作成要項で今後も継続することとなった。

——広報委員会——

1. 学会からのお知らせ(大会情報、論文賞、大会発表賞など)、学会関連情報(公募情報、研究会情報など)を随時更新した。
2. 会則・規則・規定類の改訂
 - a. 英語版が抜け落ちていた部分が多数あったのをすべてJohn Haig先生のご協力を得て英語化し、これで英語版が揃って完全となった。
 - b. 日本語版については、選挙がウェブ化されるのに伴い、「会則」の第10条第2、3項、および「選挙規則」の第1、10、12条および第5条についての注記が改訂され、第10、12条についての注記が追記された。また「選挙細則」(=紙の選挙についての定め)が廃止された。
 - c. 文言の修正として、一部「規定」となっている部分を「規程」に改定した(動詞用法のものと同条項の意のものを除く)。
3. ウェブサイト内検索が機能していないとの報告を受け調査したが、ウェブサイトの構成の特性と、土台のコンテンツマネジメントシステムXOOPSの検索システムの仕様が相容れないためにうまく機能しないという根本的な問題があることが分かった。解決策として、サイドバー「その他関連情報」の下に検索ページへのリンクを作成し、検索ページではGoogle検索を利用したサイト内検索ができるようにした。

4. 外部からのイベントの掲載依頼について何をトップページに掲載し、何を「学会関連ニュース」のページに掲載するかを選別方針について、これまでの基本方針では「研究所等」からの依頼のみをトップページに掲載するとのことだったが、大学研究科等からの依頼はどういう扱いにすべきかが議論となった。協議の結果、研究科主催イベントは数が多くトップページ・リソースを浪費することが予測され、また研究所のイベントとは性質が違うとの見解で一致し、研究科からの告知依頼は他学会・研究会からの依頼と同じく「学会関連ニュース」掲載とするという方針を申し合わせた。

——夏期講座委員会——

- ・2017年10月1日に委員が交代した。新委員は、宮本陽一（委員長）、小野 創、田中真一、千田俊太郎、本多 啓、渡辺 己（夏期講座2018実行委員長）。
- ・夏期講座2018の実行委員会委員が決定した。委員は、渡辺 己（委員長）、長屋尚典、山越康裕、降幡正志。
- ・夏期講座2016から夏期講座2018への引継ぎを2017年9月25日に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で行った。
- ・夏期講座2018の開講科目と講師が以下の通り決定した。生成文法（初級）/藤井友比呂（横浜国立大学）、生成文法（中上級）/越智正男（大阪大学）、日本語文法（古典・現代）（初級）/竹内史郎（成城大学）、日本語文法（方言）（中級）/黒木邦彦（神戸松蔭女子学院大学）、フィールド言語学（初中級）/内藤真帆（愛媛県立医療技術大学）、認知言語学（中上級）/酒井智宏（早稲田大学）、形式意味論（中上級）/須藤靖直（Univ College London）、音韻論（初中級）/那須川訓也（東北学院大学）、語用論（中級）/原原理枝（早稲田大学研究員）、心理言語学（初中級）/中谷健太郎（甲南大学）、言語獲得（初中級）/杉崎鉞司（関西学院大学）、文字論（初中級）/荒川慎太郎（東京外国語大学）・澤田英夫（東

京外国語大学）。

- ・夏期講座2018においても、参加者に学会入会を促すため、会員の参加費は一般、学生とも3,000円割引くこととした。
- ・夏期講座2018における手話通訳補助の上限を、6日間開催されることを考慮し、1件あたり100,000円とすることとした。
- ・夏期講座2018における80周年事業・特別講演（非公開）を第1候補：ロナルドラネカー氏、第2候補：バーナードコムリー氏に依頼することとした。

——学会賞選考委員会——

2017年度第1回学会賞選考委員会

2017年7月29日～8月2日、メール審議
[審議事項]

- (1) 第154回大会発表賞について
 - ・滝浦真人大会発表賞選考部会長より、部会による審査結果の説明があり、審議の結果、3名の受賞者を決定した。

2017年度第2回学会賞選考委員会

2017年9月5日～9月9日、メール審議
[審議事項]

- (1) 2017年度論文賞について
 - ・早津恵美子論文賞選考部会長より、部会による審査結果の説明があり、審議の結果、1名の受賞者を決定した。

2017年度第3回学会賞選考委員会

2017年10月5日～10月14日、メール審議
[審議事項]

- (1) 論文賞選考部会内規の改正について
 - ・論文賞選考部会内規に、可能な受賞回数や共著論文の扱いが明記されていなかったため、大会発表賞選考部会内規に倣い、条項を加えた。

2017年度第4回学会賞選考委員会

2017年12月26日～12月27日、メール審議
[審議事項]

- (1) 第155回大会発表賞について
 - ・滝浦真人大会発表賞選考部会長より、部

会による審査結果の説明があり、審議の結果、2名の受賞者を決定した。

謝 辞

- ・第154回大会および第155回大会発表賞、2017年度論文賞の選考にあたり、多くの会員に審査員としてご協力いただきました。以下に、承諾をいただいた方々のお名前を掲載いたします（敬称略、五十音順）。

〈大会発表賞〉

浅原正幸	池田 潤	伊藤たかね
上田 功	上山あゆみ	江口 正
尾谷昌則	越智正男	風間伸次郎
梶 茂樹	片桐真澄	加藤重広
北野浩章	木部暢子	久保智之
蔵藤健雄	栗林 裕	郡司隆男
佐久間淳一	佐々木冠	高野祐二
田口善久	田村幸誠	千葉庄寿
月田尚美	時本真吾	長崎 郁
西垣内泰介	新田哲夫	長谷川信子
長谷川宏	林 徹	林下淳一
広瀬友紀	藤代 節	松浦年男
松本 曜	三原健一	宮本陽一
山越康裕	由本陽子	渡辺 己

〈論文賞〉

木部暢子	金水 敏	小林正人
津曲敏郎	早津恵美子	松森晶子
吉田和彦		

——事務局——

- ・2018年3月15日（木）13:30から17:30まで国立国語研究所において、事務局の引継ぎを行った（出席者：窪菌晴夫会長、野田尚史事務局長、田窪行則次期会長、有田節子次期事務局長）。

「日本語学会黒田基金」お礼とご報告

アメリカ言語学会が始めた黒田フェロースHIP基金（Yuki Kuroda Student Fellowship Fund）を支援するために、日本語学会でも「黒田基金」として募金活動を行いましたところ、昨年7月から12月末までの半年間で総額1,057,000円の寄付が集まりました。ご協力下さった会員の皆様に厚く御礼申し上げます。2018年1月26日に、学会からの寄付金（10万円）とあわせてアメリカ言語学会の基金に送金いたしました。

第 155 回大会

期日 2017 年 11 月 25 日 (土)・26 日 (日)

会場 立命館大学

公開シンポジウム 11 月 26 日 (日) 13:40 ~ 16:40 (以学館 1 階 2 号ホール)

- Formal Approaches to Subjectivity and Point-of-View
理論言語学が解き明かす主観性と視点 Chair/Organizer: Takeo KURAFUJI
- (S 1) Counterstance Contingency: Christopher KENNEDY
A Pragmatic Theory of Subjective Meaning Malte WİLLER
- (S 2) The Logophoric Hierarchy as Seen from the Point-of-View Projections
Taisuke NISHIGAUCHI
- (S 3) Modal Questions and Point-of-View Shift in Korean and Japanese Yukinori TAKUBO
Masahiro YAMADA

口頭発表

—第 1 日 (11 月 25 日 (土)) 13:00 ~ 17:40—

◦ A 会場

- (A 1) 13:00 ~ 状態性と事態解釈：アルタ語 (フィリピン) に見られる非動作動詞 木本 幸憲
- (A 2) 13:40 ~ フィジー語の発言動詞の補文節について 岡本 進
- (A 3) 14:20 ~ ブルシャスキー語スリナガル方言で再構成され出した名詞クラス 吉岡 乾
- (A 4) 15:00 ~ スワヒリ語マクンドゥチ方言の記述から浮かび上がる *-mala「終わる」の文法化のプロセス 古本 真
- (A 5) 15:50 ~ ベトナム語の分裂文に関する研究 讃井 綾香
- (A 6) 16:30 ~ 焦点表示と焦点関連表現の関係：グイ語の場合 大野 仁美
- (A 7) 17:10 ~ 分裂構文と疑似分裂構文の区別と使用における前提：シダーマ語の事例からの考察 河内 一博

◦ B 会場

- (B 1) 13:00 ~ クルフ語の自発使役構文 小林 正人
- (B 2) 13:40 ~ アラビア語チュニス方言のモダリティ表現と主題人称 熊切 拓
- (B 3) 14:20 ~ アゼルバイジャン語・トルコ語と可能表現 青山 和輝
- (B 4) 15:00 ~ 保安語積石山方言の三人称代名詞 佐藤 暢治
- (B 5) 15:50 ~ アルメニア語の不定詞による名詞修飾の機能 クロヤン ルイザ
—日本語との対照を通して— 堀江 薫
- (B 6) 16:30 ~ 中古日本語における動詞とアスペクト助動詞との接続 相補性の再評価 廉田 浩
- (B 7) 17:10 ~ Shift-together in Burji Sumiyo NISHIGUCHI

◦ C 会場

- (C 1) 13:00 ~ エスキシエヒル・カラチャイ語のアクセント 菅沼健太郎
—チュルク諸語のアクセント類型論を視野に入れて— 藤家 洋昭
アクバイ オカン ハルク
- (C 2) 13:40 ~ 印欧祖語 *oi から共通スラヴ語 y への変化における二重母音のエッジ効果 大山 祐亮
- (C 3) 14:20 ~ イロカノ語の音節構造と母音・子音の相互作用 山本 恭裕

- (C 4) 15:00 ~ コイサン諸語における器質性構音障害の症例：
軽度舌小帯短縮症のグイ語話者によるクリック子音音
素の発音 中川 裕
宇野 園子
- (C 5) 15:50 ~ ポケモンのネーミングにおける母音と有声阻害音の効
果 熊谷 学而
川原 繁人
- (C 6) 16:30 ~ 定量的な観点から見た上海語の変調域 高橋 康德
- (C 7) 17:10 ~ 中国語母語話者による日本語語頭破裂音の生成
一子音の調音位置・地域差と VOT の関係一 王 風翔
- 。D 会場
- (D 1) 13:00 ~ 日本語を母語とする子どもの所有文の習得について 松藤 薫子
- (D 2) 13:40 ~ 日本語学習者にみるフォーカスの韻律的特徴 藤森 敦之
吉村 紀子
遊佐麻友子
中山 峰治
- (D 3) 14:20 ~ 移動表現における着点の有無：通言語的実験研究 江口 清子
吉成 祐子
眞野 美穂
アンナ・ボルジロフスカヤ
松本 曜
- (D 4) 15:00 ~ 二重対格制約の心理的実在に関する実験研究 佐藤 俊樹
玉岡賀津雄
- (D 5) 15:50 ~ Only in syntax: Syntactic derivation of lexical compounds Koji SHIMAMURA
in Japanese Takayuki AKIMOTO
- (D 6) 16:30 ~ On the (Ir)regularity of Dunan Verbal Morphophonology Brent de CHENE
- (D 7) 17:10 ~ How many times is the action repeated? An analysis of Shoko SHIDA
semelfactive interpretations based on the combination of Kentaro NAKATANI
the verb and its object
- 。E 会場
- (E 1) 13:00 ~ チェコ語の所有動詞 *mit* が表す「学校がある」につい
て 浅岡健志朗
- (E 2) 13:40 ~ 「自分」の再帰用法と述語の意味制約 小栗 哲哉
- (E 3) 14:20 ~ 中国語動量詞の適用とイベント構造 王 丹楓
- (E 4) 15:00 ~ 中国語の時間認識について 鄭 新爽
一「左」「右」を伴った新たな時間表現を中心に一
- (E 5) 15:50 ~ There comes 時間表現構文の意味機能と否定文との関
わり 三野 貴志
- (E 6) 16:30 ~ 英語の単数形可算名詞と「度量の属格」：
HPSG による分析 前川 貴史
- (E 7) 17:10 ~ 英語の不定詞関係節と be to 不定詞について 西前 明
- 。F 会場
- (F 1) 13:00 ~ ノグ文：命題の性質 蒲地賢一郎
- (F 2) 13:40 ~ 現代韓国語の「-n kes-ita」文の「主題-解説」構造と
意味解釈プロセス 李 英蘭

(F 3)	14:20 ~	事態関係の典型性と事態関係の客体化について 一テ形接続に見られる「逆接」の意味に着目して一	松浦 幸祐
(F 4)	15:00 ~	「よく食べる」構文における「が/を」交替の検証	平田 裕
(F 5)	15:50 ~	Vテイク・Vテクルにおける多義性と再分析	日高 俊夫
(F 6)	16:30 ~	統語的意味合成と語彙的意味合成	工藤 和也
(F 7)	17:10 ~	統語的複合動詞の分類再考	大野 公裕
。G会場			
(G 1)	13:00 ~	反対の意味解釈がなされる日本語命令文の研究	浅野 真菜
(G 2)	13:40 ~	活性化を用いた手続きの意味： 日本語の談話標識「なんか」の事例研究	楊 雯淇 上田 雅信
(G 3)	14:20 ~	「だけ」の項削除	森山 俊成
(G 4)	15:00 ~	主要部削除と日英語の属格複合語	大久保龍寛
(G 5)	15:50 ~	The locus of uncertainty and commitment in speech acts: comparing <i>daroo</i> and <i>wobl</i>	Lukas RIESER
(G 6)	16:30 ~	終助詞における義務的含意と前提の最大化	井原 駿
(G 7)	17:10 ~	日本手話の「列挙浮標」(List Buoys) について	浅田 裕子
。H会場			
(H 1)	13:00 ~	日本語における例外的格付与構文と複合名詞句内に含まれた照応形への束縛に関する研究	田儀 勇樹
(H 2)	13:40 ~	「も」の解釈への統語論的アプローチ 一累加と全称を中心に一	榎原 実香
(H 3)	14:20 ~	変化内在関係節の再考察	澁谷みどり
(H 4)	15:00 ~	日本語受動文における「られ」と「に(よって)」句の範疇と統語的位置	片岡 恋惟
(H 5)	15:50 ~	古代日本語における無生物主語の受身文について	林下 淳一 後藤 睦 金水 敏
(H 6)	16:30 ~	対比のハの否定極性について	井戸 美里
(H 7)	17:10 ~	属性叙述受動文の描く世界	三原 健一

ワークショップ

—第2日(11月26日(日)) 10:00 ~ 12:00—

ワークショップ1

(W 1)	音韻部門における回帰的併合	企画者・司会者：那須川訓也
(W 1-1)	回帰的併合と強勢	時崎 久夫
(W 1-2)	非時系列的音韻論における局所性と方向性	高橋 豊美
(W 1-3)	線形順序を排した英語軟口蓋音軟化の分析	大沼 仁美
(W 1-4)	一值的音韻素性を対象とした回帰的併合	那須川訓也

ワークショップ2

(W 2)	チベット・ビルマ語派における「方向接辞」の諸相	企画者・司会者：荒川慎太郎
(W 2-1)	西夏語とムニャ語の方向接辞	荒川慎太郎 池田 巧

(W 2-2) デバ語とギャロン語における方向接辞の対照

白井 聡子

長野 泰彦

(W 2-3) ティディム・チン語とジンポー語における方向接辞の対照

大塚 行誠

倉部 慶太

ポスター発表

—第2日(11月26日(日)) 11:30～12:50—

(P-1) Subjects of Stative Predicates in Prenominal Sentential Modifiers in Mongolian

YILIQI

Hideki MAKI

Lina BAO

Megumi HASEBE

(P-2) 愛媛県大島宮窪地区の村落手話(地域共有手話)における二種類のタイムライン

矢野羽衣子

松岡 和美

(P-3) 日本語を母語として獲得する幼児のTPについて:動詞語幹・活用語尾・主格に注目して

團迫 雅彦

(P-4) 日本語オノマトベの心像性における母語話者と非母語話者の差異

馬 瓊

木山 幸子

日本語学会 2018～2020 年度役員選挙の結果について

2018～2020 年度役員（会長，編集委員長，会計監査委員，評議員）の選挙を，会則・選挙規則および選挙細則に基づいて，以下の日程で行った。

- 2017 年 12 月 選挙実施の案内発送
- 2017 年 12 月 18 日（月） 投票開始
- 2018 年 1 月 15 日（月） 投票締め切り

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

- 日 時：2018 年 1 月 21 日（日） 16:00～17:30
- 場 所：日本語学会事務局（国立国語研究所）
- 出席者：窪蘭晴夫（選挙管理委員長），井上 優，風間伸次郎，滝浦真人，竹沢幸一，
中川 裕，長谷川信子，林 徹（以上，選挙管理委員）
- オブザーバー：野田尚史（事務局長），金城由美子（事務局委員）

開票結果は以下の通り。なお，2名の会員から技術的な問題等でウェブ投票ができないという申し立てがあった。今回がはじめてのウェブによる選挙であることを考慮し，申し立てのあった会員に対しては，今回に限り郵便による投票を認めることとした。よって投票総数の 203 には 2 件の郵便による投票も含まれている。

投票総数	203	うち有効投票数	203
		無 効	0

1. 会長選挙

投票総数	203	うち有効投票数	196
		白 票	7
		無 効（白票を除く）	0
当 選	田窪行則	32 票	
次 点	金水 敏	23 票*	
次々点	吉田和彦	23 票*	
		（同数のため抽選による）	

2. 編集委員長選挙

投票総数	203	うち有効投票数	188
		白 票	15
		無 効（白票を除く）	0
当 選	井上 優	12 票	
次 点	風間伸次郎	10 票	
次々点	加藤重広	7 票*	
		（同数のため抽選による）	

3. 会計監査委員選挙

投票総数	405	うち有効投票数	348
		白 票	57
		無 効（白票を除く）	0
当 選	上山あゆみ	16 票	

当 選	加藤重広	16 票
次 点	定延利之	12 票
次々点	野田尚史	10 票

4. 評議員選挙

選挙細則に基づき、当選者のみを各地区別に五十音順に掲げる。

[北海道] (定数 3 名) 奥 聡, 時崎久夫, 野村益寛

[東北] (定数 4 名) 小野尚之, 小泉政利, 後藤 齊, 那須川訓也

[関東] (定数 28 名) 庵 功雄, 石井 透, 伊藤たかね, 井上 優, 遠藤喜雄, 大津由紀雄, 大堀壽夫, 生越直樹, 風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣, 工藤真由美, 窪蘭晴夫, 小林正人, 滝浦真人, 田中伸一, 長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史, 長谷川信子, 林 徹, 早津恵美子, 福井直樹, 福井 玲, 松本 曜, 渡辺 己

[中部] (定数 10 名) 江畑冬生, 呉人 恵, 斎藤 衛, 佐久間淳一, 澤田治美, 杉崎敏司, 玉岡賀津雄, 新田哲夫, 堀江 薫, 町田 健

[近畿] (定数 16 名) 有田節子, 影山太郎, 梶 茂樹, 金水 敏, 佐々木冠, 定延利之, 沈 力, 千田俊太郎, 林 範彦, 藤代 節, 益岡隆志, 宮本陽一, 由本陽子, 吉田和彦, 吉田豊, 米田信子

[中国・四国] (定数 5 名) 桐生和幸, 塚本秀樹, 辻 星児, 宮崎和人, 和田 学

[九州・沖縄] (定数 5 名) 青木博史, 江口 正, 狩俣繁久, 久保智之, 下地理則

なお、田窪行則 (近畿地区)、上山あゆみ (九州・沖縄地区)、加藤重広 (北海道地区) の 3 氏は評議員当選に足る票数を得たが、それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため、兼任禁止規定により評議員とはならない。これに伴い当該地区で繰り上げ当選が生じた。また、関東地区に 1 名の辞退者があったが、選挙規則により補充はしない。

◇退 会

国内通常会員：16名
国内学生会員：2名
18名

◇入 会

国内通常会員：13名
国内学生会員：22名
在外通常会員：1名
36名

日本言語学会学会賞報告

第154回大会（2017年春季，首都大学東京）の大会発表賞（3件）

・古本真氏

「スワヒリ語マクンドゥチ方言における主題を標示する指示詞の縮約形」

スワヒリ語マクンデウチ方言の指示詞縮約形について、鋭い考察を行いバントゥー系言語の主題化の問題に一石を投じた。指示詞の基本形と縮約形の異なる機能を指摘した上で、縮約形が代名詞接辞でないことの立証こそ弱かったものの、縮約形に主題提示機能があることを示唆した。説得力ある論理構成に加え聴衆向けの工夫もなされ、質疑応答への対応も誠実だったが、積極的な反論があってもよかった。

・Asako Matsuda 氏

“Partial Control PRO as an associative plural”

Partial Control が associative plural の構造を持つと仮定することで、部分的解釈に加えて包括的解釈を許すといった、Partial Control 現象の意味的・統語的特徴を見事に説明していた。理論的・経験的にもう一步深めた分析を聞きかかった印象もあるが、提案された分析の今後の展開にも期待が持てる意欲的な発表であった。英語の発表も流暢で聞きやすく、質疑応答も的確だった。

・矢野雅貴氏

（共同発表者：新国佳祐氏，小野 創氏，木山幸子氏，里麻奈美氏，TANG Apay Ai-yu 氏，安永大地氏，小泉政利氏）

「タロコ語文理解実験からみる基本語順と普遍的認知特性について—事象関連電位を指標として—」

研究の少ない OS 型言語の貴重なデータを収集し、基本語順と普遍的認知特性の両方の関与を示した内容でインパクトも大きい。綿密に計画された実験は、解釈も適切であった。全体に筆頭著者としての関与・貢献度が十分窺え、質疑応答でも高い水準の応対をしていた。唯一、ERP に関する前提が説明不足気味だった難点はあるものの、総体としてきわめて高い評価を得た。

2017年度の論文賞（1件）

・麻生玲子氏

「南琉球八重山語波照間方言の三型アクセント」（共著者：小川晋史氏）

『言語研究』150号（2016年9月）

本論文は、南琉球八重山語波照間方言が三型アクセント体系をもつことについて、従来様々

な解釈がなされてきたデータを自身のフィールドワークでの調査結果から再検討することによって、説得的に論じた論考である。類型論の観点から重要な記述報告であるとともに、音調発生論 (tonogenesis) に対して日本語・琉球語のアクセント研究から貢献しうる可能性を示している。日琉語のプロソディー研究に新局面を切り開き、当該分野の研究の進展に大きく寄与する論文として高く評価できる。

第 155 回大会 (2017 年秋季, 立命館大学) の大会発表賞 (2 件)

・木本幸憲氏

「状態性と事態解釈：アルタ語（フィリピン）に見られる非動作動詞」

アルタ語（ルソン島北部）では、他のフィリピン諸語と異なり、動作動詞と可能動詞のほかに状態動詞と形容詞が述語の下位クラスとして区別されることを示した。発表の際にフィリピン諸語の専門家以外の聴衆に対する配慮が若干不足していたところはあるが、論証は明快かつ説得的であり、フィリピン諸語における品詞の問題について重要な知見を提供した発表として高く評価できる。

・高橋康徳氏

「定量的な観点から見た上海語の変調域」

中国で出版された上海語教材をデータとする量的分析を通じて、上海語の変調域（変調が生ずる単位）は 2 音節からなるフットとほぼ対応するが、統語境界との対応の遵守が 2 音節フットの形成よりも優先されることを示した。語学教材をデータとする点も含め、より踏み込んだ分析の余地を残しているが、90 年代以降研究の進展がなかったテーマについて量的研究の観点から重要な進展をもたらしたことは高く評価できる。

2017 年度役員

【会長】

窪蘭晴夫

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥,
柴谷方良, 早田輝洋, 松本克己

【常任委員】

有田節子, 井上優, 上山あゆみ, 加藤重広,
小泉政利, 小林正人, 斎藤衛, 玉岡賀津雄,
吉田和彦

【事務局】

野田尚史(事務局長), 金城由美子, 内藤真帆

【評議員 (71 名)】

[北海道]加藤重広, 佐々木冠, 津曲敏郎[東北]
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉 [関東] 池田潤,
井上優, 上野善道, 大津由紀雄, 大堀壽夫,
荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 影山太郎,
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,
木部暢子, 澤田英夫, 滝浦真人, 角田太作,
長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史, 長谷川信子,
林 徹, 早津恵美子, Prashant Pardeshi, 福井
直樹, 松森晶子, 峰岸真琴, 三宅知宏, 鷺尾
龍一, 渡辺己 [中部] 北野浩章, 呉人恵,
斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美, 玉岡賀津雄,
新田哲夫, 堀江薫, 町田健 [近畿] 有田節子,
上田功, 梶茂樹, 金水敏, 工藤真由美, 定延
利之, 沈 力, 田窪行則, 千田俊太郎, 藤代
節, 益岡隆志, 松本曜, 由本陽子, 吉田和彦,
吉田豊, 米田信子 [中国・四国] 桐生和幸,
酒井弘, 塚本秀樹, 辻星児, 宮崎和人 [九州・
沖縄] 青木博史, 江口正, 狩俣繁久, 金智賢,
平子達也

【編集委員会】

金水敏 (委員長), 家入葉子, 上田功, 江口正,
風間伸次郎, 酒井弘, 高野祐二, 滝浦真人,
堤良一, 松森晶子, 村杉恵子, 吉村公宏,
米田信子

【特別編集委員】

Bjarke Frellesvig, Larry Hyman, Juha Janhunen,
金周源 (Kim Juwon), Christine Lamarre, 富岡
諭 (Satoshi Tomioka)

【大会運営委員会】

内海敦子 (委員長), 尾谷昌則, 越智正男,
小野創, 金善美, 沈 力, 田村幸誠, 中村渉,
新田哲夫, 堀博文, 三宅知宏, 山越康裕

【広報委員会】

中谷健太郎 (委員長), 上山あゆみ, 北原
真冬 (英語ページ webmaster), 呉人恵 (危機
言語担当), 堤良一, 原田なをみ, 那須昭夫
(日本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

宮本陽一 (委員長), 小野創, 田中真一, 千田
俊太郎, 本多啓, 渡辺己

【学会賞選考委員会】

斎藤衛 (委員長), 呉人恵, 小泉政利, 滝浦真人,
玉岡賀津雄, 早津恵美子, 吉田和彦

【会計監査委員会】

久保智之, 田野村忠温